

頌春

上関
未来通信

豊かな町を原子力発電とともに

上関町まちづくり連絡協議会 ● 会報

No.45
正月号

通算359号

発行 令和6年1月23日

2023 年の出来事

- 1 / 11 上関未来通信 42 号（正月号）発行
- 3 / 22 町連協幹事会
- 5 / 31 上関未来通信 43 号発行
- 9 / 22 町連協幹事会
- 10 / 26 原子力の日（のぼり・設置街宣活動）
- 10 / 29 青壮協がエネルギー講演会を開催
（講師：奈良林直氏）
- 11 / 27 上関未来通信 44 号発行
- 12 / 20 町連協幹事会

横島付近から昇る朝日（惣津地区越しに望む）



上関町まちづくり連絡協議会

代表幹事 藤井 快宏

新年あけましておめでとうございませう。皆さまには穏やかな新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、平素より「上関町まちづくり連絡協議会」の活動にご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

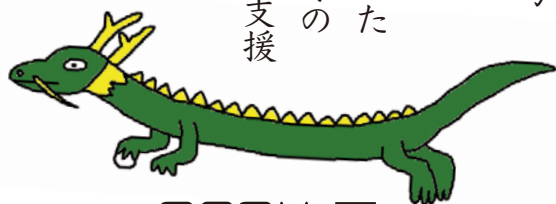
昨年は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げられ、上関町でも「水軍祭り」や「愛・ランドフェア」などの様々な行事が再開され、私たちの暮らしに日常が戻りつつあることを感じることができました。

さて、原子力に目を向けると、昨年、脱炭素社会の実現とエネルギーの安定供給の両立を目指した、GX実現に向けた基本方針が閣議決定され、脱炭素エネルギーである原子力発電を活用する国の方針が明確化されました。引き続き、こうした国の動きを注視していくとともに、上関原子力発電所の建設に向けた動きが一日も早く進むことを期待しています。

また、上関町においては、昨年8月に中国電力が新たな財源確保策・地域振興策として上関町に回答した使用済燃料中間貯蔵施設の設置に係る調査・検討について、現在、立地可能性調査が進められているところです。当会としましては、上関町の実情と、中間貯蔵に関する正しい情報をもとに冷静に議論することが必要と考えており、今後とも情報発信等を実施してまいります。

当会では本年も、原子力発電所の立地を契機とした活力ある豊かな町づくりに向け、講演会や勉強会等の理解活動を行ってまいります。本年も、変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

最後に、本年が皆さまにとりまして、幸多く実りある一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



2024 辰

イラスト／古泉祥生氏

西哲夫町長に聞く

上関町の将来に向けて

新春インタビュー

西哲夫町長が誕生して1年あまりが経ちました。これまで上関町の地域振興に向けて様々な対策に取り組んでおられますが、中でも昨年8月18日に公表された「使用済燃料の中間貯蔵施設建設に係る調査・検討の受け入れ」については、町内外から大きな反響がありました。こうした中、西町長を迎え、青壮年連絡協議会のメンバー3名と「新春対談」を開催させていただきました。今回はこの対談の内容を要約して掲載します。

西●最初に私より、平素から町行政に対してご支援とご理解をいただいていることにお礼申し上げます。「青壮年連絡協議会」はもともと我々が立ち上げた会で、初代の会長は原田嘉明さん、私が副会長でした。この組織で原子力発電所の誘致を進めることが、上関町のまちづくりのためになる、ということでご様々な活動をしていました。会を皆さんが継承して、活動していただいて大変ありがたく思っています。

本日は、ざつぱらに話したいと思います。よろしく申し上げます。守友●2022年10月の町長選挙で

は、原子力推進の立場で戦い、町民の7割を超える支持を得て当選しましたが、この結果をどのように受け止めていますか。また、上関原子力計画に動きがない中で、その民意にどう対応してきましたか。

西●当時、私は75歳で、議員を27年、議長職は9年目に入っていました。こうして長期にわたり、ご支援いただいた恩に報いるためには、上関町のためにもうひと踏ん張りしなきゃならん、という思いで立候補を決断しました。

立候補にあたり、私は『原子力発電所は上関町のまちづくりに必要で

ある』ということを明確に表明しました。結果、70・4%の得票率で当選することができました。これは町民がこの選挙を「最後の原子力選挙にしたい」という強い思いの現れだったのでしょうか。

国のお墨付きを得た原子力計画

上関町では、様々な職種で三代目が一生懸命頑張っています。この人たちが仕事を続けられる町にしなければなりません。

また、私は青壮年連絡協議会にいた時代から何度か祝島に渡り、意見交換をしていました。島の存続、振興に強い思いを持っている人も多く、この人たちの思いにも報いたいと考えています。

昨年2月、私は西村経済産業大臣（当時）に会いました。岸田総理が「原子力を最大限活用する」と表明し、原子力に追い風が吹いてきた中で、上関原子力発電所の位置づけを問いました。これに対し、西村大臣からは「原子力発電所の新増設については、今は明確に提示することはできないが、上関町は重要電源開発地点に指定されており、国もしっかりと支えていきます」という言葉をいただきました。

また、この時に『エネルギー高度化・転換理解促進事業』という補助金の採択のお願いもしました。その後、無事に採択され、3月議会の2023年度当初予算で調査費用の2千万円を計上。現在、道の駅や鳩子の湯、栽培漁業センターなどに太陽光発電設備の設置に係る調査をしています。この補助金は全国から応募がありますが、上関を採択してくれたのは、やはり国の政策に協力している点が評価されたものと思っています。

上関町の現状と見通し

守友●上関町の現状と将来の見通しはどのようにお考えですか。また、現在の住民のサービスレベルを維持できるのは、あと何年くらいなのでしょう。

西●町は様々な課題を抱えています。少子高齢化、人口減少、産業の衰退、どれも全国的にトップクラスです。

中でも人口減少は深刻です。近年では毎年100人ずつ減っています。この人口減少をいかに緩やかにするかが課題です。自然減少はやむを得ないが、町外へ家族と出て行くのが一番痛手です。

町財政については、2023年度の当初予算は一般会計で約35億円。そのうちの町税は1億8千万円あまりで、予算全体の5・6%しかありません。ですから一般財源の多くを国からの地方交付税に依存している状況です。地方交付税は人口に対して換算されるため、人口減少は財政に与える影響も大きいのです。

このような財政状況にあっても、住民の生活負担軽減にかかる支援はできる限り続けていきたい。現在、

全職員が町財政の状況を自分事としてしっかりと取り組んでおり、当面は現状を維持できる見通しです。

松原●子供たちに対して行われている医療費、バス運賃、給食の補助なども継続可能ですか？

西●子育て支援についての優先順位はむしろ上げなければならないと思っています。子育て世代が安心して生活できる環境は町の重要施策なので、できる限りの予算を確保していく予定です。

田中●人口減少に対する施策の中で、交流人口を増やすための対策はどうですか？

西●上盛山は観光施設として前町長の時から整備計画がありました。人が集まる場所にするため、駐車場の整備やシダレザクラの植樹、海を越えてやって来る蝶のアサギマダラが集まるフジワカバを植えたりしています。

上盛山は国東半島から佐田岬、周防大島、広島が見えるなど、景色に感動する人が多いんですよ。道の駅や鳩子の湯に来た人たちに、1年を通じて上がつてもらえるような施設にしたいと思っています。



上関町長 西 哲夫氏



青壮年連絡協議会 事務局長 松原 聖



進む上盛山の整備

中間貯蔵施設立地の効果

効果的な

地域振興策

守友●中間貯蔵施設の件は、これからどういう取り組みをされていかれますか。

西●上関町を、お年寄りに優しく、若者には住みやすい町にしたい。そのためには財源が必要です。原子力発電所は大きな経済効果を期待できますが、現状は停滞しています。そこで昨年2月、中国電力に対して「まちづくりのための財源確保につながる新たな地域振興策を検討して欲しい」と要請しました。そして8月2日、中国電力から「中



間貯蔵施設に係る調査・検討をしたい」との返答をいただきました。

中間貯蔵施設については以前視察に行ったことがあるので、私自身は心配していませんが、周辺市町も含めて、びつくりされた方が多かったようです。隣接の首長さんからは「情報提供がない。説明不足だ」と言われますが、8月2日の中国電力からの返答の後、「中間貯蔵施設の調査の申し込みがありました。このことについては後日議会に諮って決定しようと思います。ご心配かけますがよろしくお願います。」という電話はしています。

守友●住民から不安の声が上がれば、やっぱり首長さんらは「慎重に判断する」と答えるでしょうね。

経済効果は大きい

西●今のままでは地元の商工業者はもちろん、漁業・農業なども疲弊していくでしょう。何かアクションを起こさなければいけない。

中間貯蔵施設の建設は、単に倉庫を建てるだけではなく、港湾の整備



青壮年連絡協議会 副会長 守友 誠



青壮年連絡協議会 事務局 田中 健太

や道路などの整備も必要になると思います。関係者の飲食や宿泊、生活関連の需要なども期待できる。原子力発電所に比べれば小さいかもしれませんが、当面はそういう仕事で経済を回したい。中間貯蔵施設が建設される事となれば、国からの交付金は県を通じて隣接市町にも入る仕組みにもなっています。

守友●私たちが視察した東海第二発電所の乾式貯蔵施設では、関連の工事も含めて多くの作業員がいました。経済効果は相当なものだと思います。



東海第二発電所の乾式貯蔵施設を視察

西●実際に隣接の商工業者の中には「西、よう決断してくれた」と言ってくれる人もいます。期待は大きいと思います。

確かに原子力の関連施設はイメージが良くないのでしよう。しかし先入観を排除して科学的に理解し、実際に現地を見に行ってもらったなら不安は払拭できると思います。

実際に行って見てほしい

田中●町の見学会を開催するというのですが、子供連れでも行けますか。

西●それはいい提案です。確かに若い人は子供を置いていくわけにはいきませんが、受け入れ側が対応してくれるのか調べてみます。大丈夫ということであれば、ぜひ親子で視察してほしいですね。

松原●私も最初に中電から説明を聞いて、何となく『安全だろう』と思っていましたが、実際に現地に行ってみて触ってみると「なんだこんなもんか。ただの倉庫だな」という印象です。とにかく現地に行ってみると納得できますよ。

西●現時点では調査の受け入れを決定しただけです。調査をして適地ということになれば、しつかりみんなで議論をして決めれば良いと思っています。住民の意向を尊重して行政運営をします。

それぞれの

立場で説明を

守友●現在、中国電力による説明等が行われていますが、町長の思いを聞きたいとの声も耳にします。

西●まずは「中国電力がしっかり説明責任を果たす」というのは、受け



新年に向けて

守友●最後に今年の抱負をお願いします。

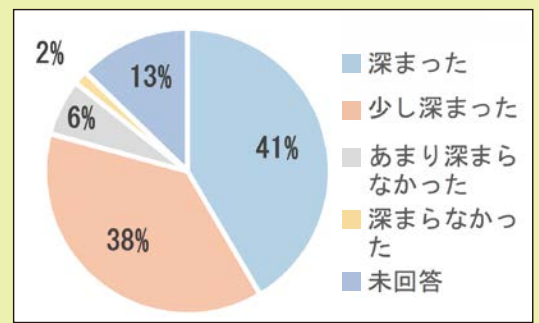
西●とにかく「定住」に向けた取り組み、そして「産業の振興」「観光振興」とか、そういったものに継続して予算をつけていくということ。そのためには安定した行政財政運営を行っていききたい。

中間貯蔵施設については、調査の結果が出てから、皆さんと一緒にしっかりと議論を尽くして方向性を示したいと思っています。

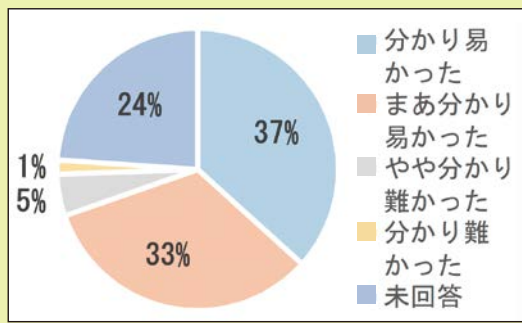
上関町の経済を立て直し、町民が安心して暮らせるまちづくりを目指して一生懸命働きます。皆さんの力もぜひお借りしたい。今年もよろしくお願ひします。

「アンケート結果を一部抜粋してご紹介します」

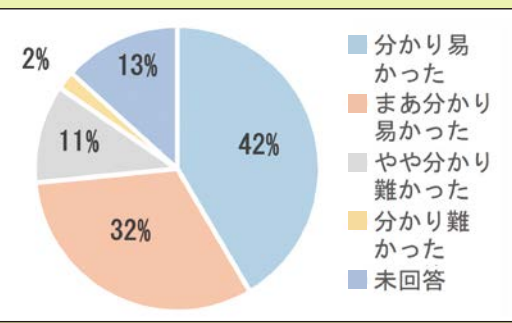
Q. 講演を聴いた事で、理解は深まりましたか。



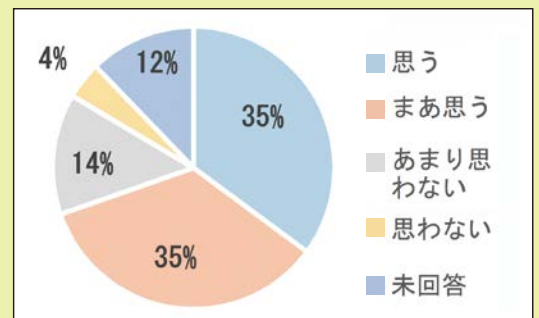
Q. 講師の話し方はいかがでしたか。



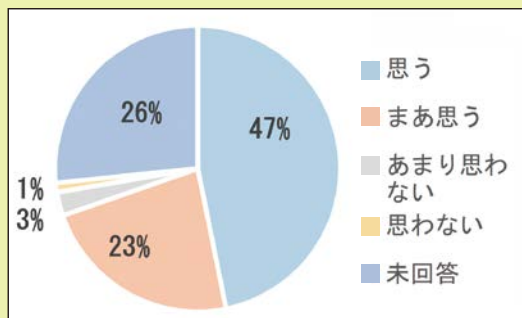
Q. 配布資料はいかがでしたか。



Q. 本日の講演を聴いて、もっと詳しい話を聞きたいと思いましたか。



Q. 今後もこのような講演を聴いてみたいですか。



講師の奈良林直氏

10月29日(日)、上関町総合文化センターにて開催した「エネルギー講演会」には、お忙しい中、多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。また、講演会終了後にお願したアンケートについても、約8割の方から数多くのご意見を頂いたことに對し、重ねてお礼申し上げます。

アンケート結果では、「講師の奈良林先生の話は分かり易かった」、「中間貯蔵施設についての理解が深まった」、「今後もこのような講演を聴いてみたい」等のご回答の割合が多く、概ねご好評をいただいたものと受け止めています。

一方、「専門用語が多いと感じた」や「もう少しテーマを絞ってもよかった」等のご意見もいただいております。その点に関しては、今後、講演会を開催する際に参考とさせていただきます。

その他にも、「中間貯蔵施設の話が駆け足だったので残念」や、「中間貯蔵施設の話をもっと聞きたかった」というご意見も多く寄せられており、中間貯蔵施設について詳しい話が聞きたいと思い講演会にご参加いただいた方々にとっては、少し物足りない内容であったかとも思います。「一度で理解することとは難しく、繰り返し聞くことで理解が深まる」というご意見もいただいていることから、今後も中間貯蔵施設をテーマにした講演会等を企画したいと考えています。

また、当日の質問でもありましたが、放射線に関すること等について不安視するご意見等も見受けられます。中間貯蔵施設は、今後の上関町における町づくりに資するものと期待していますが、町民の皆様様の安心・安全が担保されることが前提であることは言うまでもありません。

不安な点や疑問に思うことは、中国電力や町等にしっかりと確認し、中間貯蔵施設について正しく理解する取り組みを行っていきたくと考えます。

また、今回の講演会のように多くの皆様にご参加いただけると私たちの活動の励みになりますので、今後とも青壮協の諸行事にご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

かみのせき

花だより

上関町は四季折々に花が咲き誇ります。ここでは冬から春にかけて咲く花を写真で紹介しします。



▲城山公園のラッパスイセン (12月～3月)



上盛山のサザンカ (11月～1月)



町内各地で見られるニホンスイセン (12月～3月)

「花咲く海の町」をキャッチフレーズにまちづくりを行っている上関町では、四季を通じて様々な花を楽しめます。冬から初春にかけてのメインはスイセン。「スイセンの町」としても知られている通り、白や黄色のスイセンが各地で花開きます。そして春には河津桜、菜の花、ソメイヨシノと本格的な花のシーズンが始まります。

●新春座談会は、西町長から青壮年連絡協議会の皆さんの「町づくり」への活動に対する、敬意と感謝のお言葉から始まりました。●座談会では、2022年10月の町長選挙の出馬に対する思いや、上関原子力発電所建設の必要性について熱く語られたほか、上関町における財政状況や、なぜ中間貯蔵施設の調査・検討を受け入れたのか、選挙公約にあった「持続可能な町づくり」、「住民に寄り添った行政」などについてもお話いただきました。西町長からは「何よりも、ふるさと上関町を次世代に繋げる」という強い思いを感じました。●青壮年連絡協議会からの質問に、終始にこやかに対応して頂き、あらためて西町長のお人柄の素晴らしさを感じました。この度は、ありがとうございました。●また、新春座談会に参加して頂いた青壮年連絡協議会の御三方にも感謝いたします。●今年は上関町が新たなスタートをきる年となり、辰のごく舞い上がって行きたいですね。(K)

後記